

まだ見ぬ景色をつくる。開発ストーリー

協力

NEDO 国立研究開発法人
新エネルギー・産業技術総合開発機構

第1回

拓くひとびと

NEDO(国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)では、「エネルギー・地球環境問題の解決」と「産業技術力の強化」をミッションに、官民一体となって技術開発・実証に取り組んでいます。こうしたプロジェクトの成果は、市場に届く製品の多くで活用されていますが、製品化されるまでは参画企業の弛まぬ努力があります。



防犯カメラにAIを実装、事件・事故の 予防・抑止から「心を救うAI」へ

開発企業
開発者

アースアイズ株式会社
代表取締役 山内 三郎

日本経済の持続的発展には、AI技術の開発力強化・社会実装促進が不可欠です。NEDOは、AI分野で将来の発展が期待されるスタートアップ企業を発掘・支援するために、「次世代人工知能・ロボット中核技術開発」プロジェクトの中で、AIコンテストを実施しました。アースアイズ株式会社は、第1回コンテストにおいて、3D空間把握技術とAIによる自動監視技術による独自の「五感AIカメラ」で受賞。その後、「五感AIカメラ」をブラッシュアップしてゆき、万引き防止などに利用できる「監視ソリューションサービス」を開始しました。

アースアイズは、「五感AIカメラ」の開発のために2015年に創業したスタートアップ企業です。しかしアイデアは創業以前からありました。創業者で代表取締役の山内三郎さんは、父親が経営する警備会社で万引き監視員に就いていました。そしていつも「やりきれない思いを胸に抱えていた」と言います。

「警備員は『万引きをする瞬間』を待ち構えて声をかけ、認めさせて捕まえます。嬉しいはずがありません。毎日とてもつらかった」

本当に必要なことは、万引き犯を捕まえることではなく店の損害を少なくすることのほう。万引きをしそうな人に声がけをするとなつてい場合は思いとどまり、みるみるうちに万引き被

害額は減少へ。こうした実績から、万引きが起こる前に予防、抑止をするという山内さんの考えを警備先の店舗も認めるようになりました。

山内さんは、「声をかけた人の中には商品を探して本当に困っている人もいました。そういったお客様には必要な手助けができました。この経験から、人間の五感(感覚)を生かしたカメラを開発できれば、事件・事故を予防・抑止できて、見守る人も見守られる人、みんなの心が救われるのではないかと考えるようになりました」と話します。このひらめきが、「五感AIカメラ」開発のきっかけとなりました。



「新たな景色」へのつづきはこちらから。閲覧はスマートフォンで。